

今回は、栄養教諭である植木先生に食育・給食指導についてお話をいただきました。

食育とは？

生きる上での知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現できる人間を育てること
「食育基本法」も制定されている

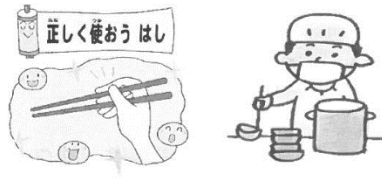

☆給食指導について☆

特別活動の学級活動に位置付けられている。→授業の一つとして意識し、指導する必要がある。

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

エ 「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」

「給食指導」と「食に関する指導」とのちがいは何か？

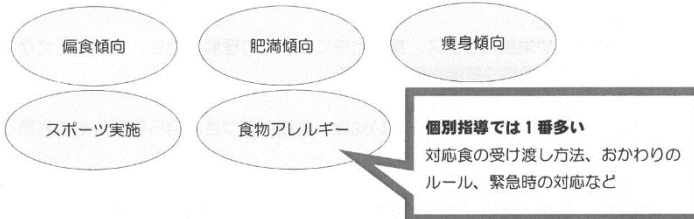
給食指導	食に関する指導
<ul style="list-style-type: none"> 給食の準備から片付けまでの一連の指導の中で、正しい手洗い、配膳方法、食器の並び方、はしの使い方、食事のマナーなどを習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 献立を通して、食品の産地や栄養的な特徴を学習させる。 教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認させる。 <p>例：小1国語 サラダで元気 →元気サラダ</p> 

栄養教諭と学級担任が連携して、各教室やランチルームで指導したり、資料提供を依頼したりして指導の充実を図りたいですね！



◇個別の指導について◇

○考えられる個別指導の場合



○偏食と摂食不安の違い

摂食不安	一般的な「偏食」
<ul style="list-style-type: none"> 食べる量は極小。一見偏食に見える。 好き嫌いについてあまり自分から話さない。 食事中、腹痛、せき、吐き気、嘔吐を訴える。 友達との関わりが少ない。 食事にトラウマがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べる量が少ない、好き嫌いがある。 献立の好みにより食事量や早さが変わる。 好き嫌いを自分から口にする。感情(喜怒哀楽)を出しやすい。 食事に集中しにくい。 友達と関わっている場合が多い。

児童の給食中や学校の様子、生活習慣等を見て、どちらの傾向があるか判断し、学級担任・保護者・栄養教諭や栄養教諭など教職員、医療機関など連携して個別対応を進めていくことが重要です。

無理強いて
食べさせることは逆効果！！

学級の中に、個別指導が必要な子どもはいないでしょうか？
確認しながら、給食指導をしていきましょう！

<メンティーの振り返り>

- アレルギー物質や異物混入など担任の先生が確認する必要性を感じた。
- 給食準備、後片付けなど自分たちでできるように支援していきたい。
- アレルギーのある児童は命に関わるので毎回の確認が重要だと感じた。
- 給食指導は、学級経営にもつながると聞いたので、マナーなどを徹底していきたい。

植木先生、ありがとうございました。

裏面には緊急時の対応についても載せていますので、確認しておいてください。

緊急時の対応について

○異物混入

- ・給食を一時停止し、給食担当や管理職に報告し、給食を停止させるかそのまま食べさせるのか複数で話し合って判断します。また、給食センターや調理場にすみやかに連絡する。

○嘔吐物の処理

- ・まず、窓をあけて浮遊しているウイルスを外に出す。

①使い捨てエプロンやマスクを身に付ける。



②消毒液を作る。
次亜塩素酸ナトリウム溶液

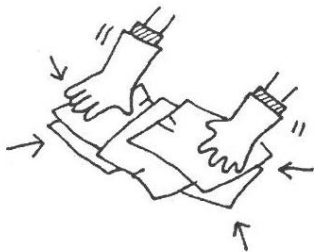
1,000ppm



③嘔吐物に②をかけて放置する。



④静かに拭き取る。



⑤床を清掃し、消毒する。



⑥終了後、片付けた人は、うがい、手洗いをしっかり行う。



・食器に嘔吐物が付いた場合、「教職員は、児童生徒の嘔吐物のため汚れた食器類の消毒を行うなど衛生的に処理し、調理室に返却するに当たっては、その旨を明示し、その食器を返却すること。」と「学校給食衛生管理基準（H21）」に示されている。その際は、食器の消毒は次亜塩素酸ナトリウム溶液（塩素濃度 200ppm）に5分以上浸すこと。